

平泉藤原氏の時代、当地域は、その一門である樋爪氏の支配下にあった。樋爪の苗字は居住地の地名に拠ったもので、「比爪」あるいは「肥爪」・「火爪」とも書き、いずれも後世の「日詰」と同訓である。樋爪館を本拠とし、志波郡の西部を領して権威があったようである。

—「紫波町史(第1巻)」1972 紫波町発行—

◎ **樋爪館は平泉・藤原氏の親族に関係する県内唯一の遺跡・・・**

樋爪氏は藤原氏初代清衡の子清綱に始まり、樋爪館は清綱の子俊衡の居館・政庁跡と推定されています。藤原氏が県内に親族を配したのは比爪の地だけと考えられるとすれば、樋爪館跡は「県内唯一の奥州藤原氏の親族関係遺跡」と言うことができると思います。

大切な郷土の歴史遺産を再認識するため、樋爪館遺跡めぐりに、ぜひ一度は参加してみても如何でしょうか。

《《《 9～10月行事予定のお知らせ 》》》

<p>9月 2日 (日曜日)</p> <p>どなたでも参加できます。皆で一緒に歩きながら見聞を広めましょう。</p>	<p>第3回樋爪館遺跡めぐり —五郎沼周回路完成記念—</p>	<p>午前8時30分 JR日詰駅(賢治歌碑前)集合 ～樋爪館周辺説明板～遺跡出土箇所説明板～大荘厳寺跡擬定地～五郎沼薬師神社～阿弥陀堂～箱清水石卒都婆群～古代蓮の池～五郎沼説明板～山吹川～五郎沼南端～蛇の塚(経塚)跡～嶋の堂観音～夜泣き石～清水端・古碑～樋爪館大溝跡～樋爪館跡標示板～ 赤石小学校・日詰駅</p> <p>午前11時30分散散予定(全行程約2km) 参加料300円(資料代込み) 雨具・飲み物等持参</p>
<p>9月 19日 (水曜日)</p>	<p>第35回月例懇話会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：桜井芳彦 テーマ：比爪館の発掘調査について</p>
<p>10月 17日 (水曜日)</p>	<p>第36回月例懇話会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者、テーマ 未定 ※ 毎月(6・12月を除く)第3水曜日に開催しています。</p>

—?—?—?—?—?— 樋爪氏 / 樋爪館 —?—?—?—?—?—

Part 4

IV 五郎沼と樋爪館 (4) 五郎沼の造営

樋爪館を造営する際に造られたといわれる五郎沼は、北上川に注ぐ滝名川を水源とし、暴れ川だった滝名川の氾濫を防ぐと共に、灌漑の役割も担っていたと考えられます。現在の大きさは、堤防や駐車場を含めて6畝ですが、造られた当時のものは数倍あったと伝えられ、その範囲は現在の南日詰の箱清水地域全域に及ぶこととなります。

伝承通りであれば、東西は500m以上になり、南北は今と変わらない約400mとし、矩形ではないのですが12～16畝にもなるかというほどの大変な規模になります。

人工的に構築された沼だとすれば、直接滝名川の水を引かず人工河川を作り支流として引いた可能性もあり、技術力もさることながら、奥州藤原氏の財力をもってして、初めて成しえたという気がします。

それが鎌倉、室町、江戸の間に徐々に埋め立てられ、紫波町史にある弘化3(1846)年3月の絵図では、まだ現在の1.5倍以上の面積がありますが、明治以降に埋め立てられて現在の範囲になったようです。

(5) 名前の由来と島の堂千手観音

この沼では俊衡の弟・五郎季衡(すえひら)がよく泳いだとつたえられ——(次号につづく)

樋爪氏のゆかり探訪

紫波町 赤石 五郎沼や周辺遺跡へ

奥州藤原氏の一族とされる樋爪氏の居館だった紫波町南日詰の樋爪館跡や館敷地内の遺跡めぐり(主催・赤石地区ひづめ館懇話会・高橋敬明会長)が1日、町内外から12人が参加して行われた。奥州藤原氏ゆかりの地があることや史跡の多さ、館が造営された800年前の地形がそのまま保たれていることなどを知り、驚きの連続だったようだ。

樋爪館の場所は紫波二石小学校付近になる。エリアは、四方に及町赤石地区。12世紀に薬師神社を含むエリア、平泉の柳え御所に造営されたと考えらるで、県埋蔵文化財センターに匹敵する街並みが形成され、中心部は現在の赤ターの調査では全体の

豊富な史跡に参加者驚く



不動明王絵像碑や樋爪五郎季衡の碑などがある箱清水石碑群

測されている。

小学校の北側から堀跡(現在は町道が見つけられ、東側と西側でも一部見つかっている。堀の幅は上が7〜8m、下が1mほど、深さは2mほどという。同町南日詰字八坂地内の下川原一遺跡では3年前に12世紀初めから末ころの白磁四耳壺(はくじじじ)の破片、刀子(とすず)、手くねかわらけのほか、樋爪氏の一族のだれかを埋葬したと思われる墓跡も出土している。

遺跡巡りでは五郎沼周辺に限定し赤石小学校前かけられている樋爪館跡の標示板、堀跡、五郎沼西側の堤防沿いにある夜泣き石(築堤時、堤防の決壊が続き水神の怒りを鎮めるため人柱となった娘の供養碑)、蛇の塚跡(経塚の跡で昭和初期に青銅の二重経筒、魔よけの短刀が見つかった場所)、古代ハス池、箱清水の石碑群、

不動明王絵像碑や樋爪五郎季衡の碑などがある箱清水石碑群

薬師神社などを半日かけて見て回った。箱清水の石碑群は13基あり、この中には宇都宮に流された樋爪五郎季衡の碑、鎌倉末ころに描かれた不動明王の絵像碑などがある。不動明王は肉眼で判別不能だが、拓本研究者が取った拓本には線刻が写し取られているという。

盛岡市から参加した60代の男性は「素晴らしいものを目にすると驚いていた。造営時に薬師堂として建立された。明治の神仏分離令により薬師神社となった。ご神体は平安仏と言われ、事実なら非常に貴重なものだが、神となつて百数十年公開されたことがないため、地域には見ても見た人はいないという。地域の歴史を知るため何度も見に来たい」と、史跡の数々に思っている。歴史の重みを感じる。いままで見過されてきたのが不思議でならない。樋爪館周辺に長年住んでいる50代の主婦は「この地に嫁いでから30年も住んでいるのに、こんなに素晴らしい場所があるとは知らなかった。地域の歴史を知るため何度も見に来たい」と、史跡の数々に

樋爪館関連資料集第2号が完成！！

平成23年1月に発行した会員発表資料集に続く第2号(A4判98頁)が完成しました。内容は平成22年度月例会で会員が発表した資料「覺王寺と大日堂」「大莊嚴寺の背景」など23件です。

県立図書館や紫波町内の地区公民館そして今月末に開館する紫波町図書館で閲覧できます。非売品ですが、入手を希望される方は、下記に詳細をお問い合わせください。

電話 019-676-3999

(赤石公民館内ひづめ館懇話会事務局)

携帯 090-3125-3776 (高橋)